

なし「おりひめ」の栽培特性の把握と技術の実証

要約

満開後 30・40・50 日に袋かけを行って果実外観を評価したが、袋かけ時期の違いによる差は認められなかった。

○ 展示のねらい

袋かけ時期の違いによる果実外観品質について調査する。

試験区概要及び調査内容（高接 5 年生樹）

- ・ 供試区：褐色一重袋を満開後 30、40、50 日に袋かけ 対照区：無袋
- ・ 調査内容：開花期、果実肥大（無袋 満開後 30、50、70、90 日）、収穫期、果重、果実品質（外観、果色、糖度、食味）、日持ち 各区 10 果を調査

○ 主な成果

表 1 開花・肥大・収穫期状況

開花期（月日）			肥大状況（満開後日数 mm）					収穫期（月日）		
始	盛	終	30 日	50 日	70 日	90 日	収穫時	始	盛	終
4/21	4/26	4/28	20.5	32.3	43.6	64.2	84.2	—	8/7	—

開花盛は調査園地の幸水とほぼ同時期であった。

今年度は台風接近で落果が懸念されたため 8/7 に収穫した。収穫時の日数は 103 日であった。収穫の目安とされる満開後 110 日より 7 日早かったため、食味はやや不良であった。糖度、日持ちには大きな差はなかった。

表 2 果実品質

	果重 g	果色 C.C.	外観			糖度 Brix%	食味	日持ち 日
			ていあ部	こうあ部	備考			
満開後 30 日	291	3.0	0.3	1.5		10.3	やや不良	5
満開後 40 日	260	3.2	0.1	1.1		10.7	やや不良	5
満開後 50 日	285	2.9	0.3	1.2		10.6	やや不良	5
無袋	280	2.5	0.4	1.2	果点が目立つ	10.3	やや不良	5

収穫時の果実外観・品質は、無袋、有袋どちらもていあ部よりこうあ部のサビが目立った。

無袋、有袋でのサビ発生状況には大きな差が認められなかったが、無袋栽培では、果点間コルクが目立った。袋かけ時期によるサビの発生状況には差は認められなかった。

このことから、外観品質向上を目的とした袋かけ時期は、農試が示した満開後 50 日の袋かけでよいと考えられた。

○ 今後の方向性

- ・ 有袋栽培を前提とした場合の袋かけ時期は満開後 50 日を目安とする。
- ・ 管内各なし産地協議会における産地計画には、長期集出荷体制整備の推進品種として「おりひめ」を位置付けているが、老木園の改植における更新品種としても導入推進を図るとともに、早期成園化技術（ジョイント栽培）の導入もあわせて検討する。

実施機関：塩谷南那須農業振興事務所経営普及部 実施場所：那須烏山市

問合せ先：栃木県農政部経営技術課技術指導班 TEL 028-623-2322 FAX 028-623-2315